



菊水地区ホームページアドレス <http://kikusui-net.jp>

「菊水地区まちづくりネットワーク会議」

平成23年度 全体会議開催

7月21日(木)「菊水地区会館」において「菊水地区まちづくりネットワーク会議」事業部全体会議が全委員出席のもとで開催されました。先般、平成23年度の定期総会(6月20日(月))が開催されましたが、今年度は設立4年目を迎え、役員改選期でもあり、事業活動も定着しつつある中で新任委員の積極参加、重複・兼務委員の整理・見直し、事業部構成人数の平準化、事業部の統廃合、役員組織の一部改定、を進め、出席者全員の承認を頂きました。

今年度は、11名の新任委員の参加を頂きましたので、まちづくりネットワーク会議の目的、設立経緯、運営組織、事業部の活動内容、等々について早期に確認と再徹底を図る意味で全体会議を開催いたしました。会議は菊水地区まちづくりネットワーク会議の(真鍋)会長挨拶に続き、(関口)副会長より、



平成23年度「定期総会」の様様



ネットワーク会議 設立目的、設立経緯、運営組織等の概要説明の後、各事業部に別れ、事業部のこれまでの活動状況、課題について活発な意見交換が行われました。今後は、各事業部内での積極的な活動が期待されます。



「菊水地区まちづくりネットワーク会議」事業部全体会議の様様

特別交通安全大会 秀岳荘広場 で開催

9月28日(水)「秋の交通安全特別大会」が秀岳荘白石店広場に於いて開催、引き続き、「大型街頭啓発活動」が国道12号線沿い歩道、環状通沿いの歩道にて実施されました。これは、9月21日～9月30日までの「秋の全国交通安全運動期間」とリンクして開催したのですが、参加者は交通安全運動推進委員を始め、交通安全指導員、町内会、老人クラブ、交通安全母の会、等の関係団体600名が参加し、白石区交通安全運動推進委員会(堀口)会長(堀口洋一白石区長)挨拶「悲惨な交通事故の犠牲者を出さないためにも、地道な粘り強い活動を続けましょう」の後、国道12号線、環状通りの歩道に出て、横断幕や黄色い小旗を掲げて、ドライバーに呼び掛けていました。



秀岳荘前広場で安全大会



国道12号線、環状通り沿いで街頭啓発活動

また、6月1日(木)は「初夏の交通安全決起大会」が南郷丘公園で開催され、その「大型街頭啓発活動」が国道12号線、環状通沿いで実施されました。

両大会ともに菊水地区からも、交通安全運動推進委員、交通安全指導員、交通安全母の会、連合町内会からも多くの方が参加しておられました。



地下鉄白石駅南郷通り付近で街頭啓発



南郷丘公園で大会

白石区「自治組織代表者研修会」開催

白石区町内会連合会連絡協議会（会長 板垣俊夫）主催による平成 23 年度「自治組織代表者研修会」が 10 月 11 日（火）16 時 00 分～19 時 00 分札幌フローラに於いて開催されました。

主催者挨拶に続き、（堀口）白石区長の挨拶の後、本年度のテーマ「町内会加入促進について」と題して札幌市側から札幌市市民まちづくり局市民自治推進室（横尾）課長の説明と東白石地区の本郷町内会（島田）会長より同町内会の「町内会加入促進の取り組み」についての事例発表が行われました。

市民自治推進課長より、★町内会の役割と地域への期待★町内会加入率の推移と白石区の現状（全市加入率 72.42%）（白石区加入率 57.06%）★加入促進に向けた札幌市の取り組みの報告がありました。

ついで、事例発表に移り、東白石地区の本郷町内会の（島田）会長より、同町内会の加入促進に向けた取り組みについて発表がありました。

★東白石地区全体で「これからの時代における町内会のあり方」についてワークショップの開催★本郷町内会（モデル地区）での「加入促進に向けた実行プラン」の検討会議開催★①アンケートにより、住民のニーズを知る②ニーズを生かした組織づくり③現在の事業を評価（事業仕分手法）ニーズに合わせた事業内容の見直し④以上の取り組み内容毎にプロジェクトチームを作り実施プランを実践中の発表。

最後に 5 名のパネリストにより意見交換が行われました。

東日本大震災の発生以降★地域の支え合い、助け合い意識の高まり★地域コミュニティの大切さを改めて認識。又、今後も益々、少子高齢化が進む中、地域への期待が高まり、町内会活動がより重要なものとなってくる。町内会加入率の低下は、地域の安全・安心なまちづくりに影響する大きな要因となる。

いずれも、特効薬はなく、地道な取り組みが必要ではないでしょうか。



（堀口）白石区区長の挨拶



本郷町内会（島田）会長の事例発表



パネリストによる意見交換

菊水地区「小学生ドッジボール大会」 in やよい児童会館!

9月17日(日)菊水やよい児童会館において菊水地区「小学生対抗ドッジボール大会」が開催されました。

この大会は、同地区の青少年育成委員会が、『スポーツを通じて、子ども同士のふれあいや、地域社会での体験の場づくり』の一環として、児童会館や小学校に協力をお願いし、今回が第1回目として開催されたものです。当日はあいにくの雨模様でしたが、各校区内から事前に申し込みのあった参加希望者は



いよいよ試合開始



みんなで準備体操を始めよう!

予定通り全員(70名)参加。

はじめてチームを組んだ地域の子も達は、学校の違い、学年の違い、男女の違い、を各チームとも簡単に乗り越え、上級生と下級生が協力して楽しそうにプレーする姿は、なかなかのものでした。

今後も、児童会館や学校・関係者のご意見を参考にして、子ども達同士や地域社会との交流体験の機会を継続して行きたいと実行委員の一人が話しをしていました。

「菊水地区まちづくりネットワーク会議」ってなんですか?

札幌市では、平成19年4月に「自治基本条例」が施行されました。これは市民が主役になって「まちづくり」を進めるためのルールです。市民、議会、行政のそれぞれの役割や、仕組みが規定されています。「だれかがするだろう」「それは行政の仕事だ」と無関心ではなく、ひとりでも多くの市民が参加し「自分達の地域は自ら考え、皆と一緒によりよくして行く」そして「行政と連携・協働しながら地域づくりをして行く」これが「住民自治」であり「菊水地区まちづくりネットワーク会議」です。地域のことは、地域に住む人が一番よく知っています。困っていることがあれば、まず自分達でやってみる、必要なら行政と協力して問題を解決して行く、これが「住民自治」です。



この所、にわかにTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)交渉に参加するかどうかで、国会や知識人の議論がマスコミで報道されている。特に農産品、工業品を含む全品目の関税を撤廃し自由化する事、そして極めて包括的であること以外は、良く解らない事である。それにも関わらず、開国(現象的には開国)を急ぐ理由は何なのだろうか。少し唐突な感じがしないだろうか? 子どもの頃、歴史で習った事を思い出す。時の幕府に対して、ペリー提督が数隻の軍艦を従い来航、目の前で大砲を撃ち(実際は空砲)威嚇、開国を迫った結果、朝廷や大名達の了解を待たずに、開国の条約(不平等な条約だった)を結んでしまう。アメリカが日本に開国を迫った目的は、太平洋で捕鯨する為の補給基地と魅力的な中国進出のための中継基地の確保の為に言われている。しかし、これにより、幕府の硬直した政治と力は衰退し、明治維新にとつながり、わずか30年あまりで、急速な近代化に成功して行く事になる。

アメリカが意図としたか、どうかは解らないが、歴史の一ページにヒントがある様に思えて来る 編集子